



「北防」での釣り体験は、4～11月の週末・祝祭日に開催中。常連さんの年齢層も幅広い



秋田港北防波堤



が、どうしようもないことを受容することも、生きていく上で大事なことです。釣りにては全てが詰まっています」

ル回転で考えるようになる。自然に対するマナーや防災スキルも身に付くし、命を無駄なくいただくことも意識するようになる。もちろんアタリのない日もあります

釣りで秋田はもっと活性化します

確かに、教科書やニュースなどの外部情報から、環境や人間についてあれこれ考えを巡らせることもあるが、釣り糸一本を投じる方が、よほど森羅万象を理解できるのかもしれない。情操面にもいいですし、釣りの持つ可能性は大きいですね」

「狩猟の本質って奥深いんですよ。釣って食べるためには、天候や地形を頭に入れ、何をどうすればベストなのかフル回転で考えるようになる。自然に対するマナーや防災スキルも身に付くし、命を無駄なくいただくことも意識するようになる。もちろんアタリのない日もあります」

平成28年に2代目社長に就任。釣りを「秋田の強み」として地域活性化できないか、というビジョンも抱いている。「山深い溪流から湖沼、磯場や砂浜まで。淡水、海水共にバリエーション豊かな魚を擁している釣りを、ここまで凝縮した県も珍しいんです。釣り客は宿泊、飲食、お土産利用で地元を潤いをもたらしてくれますし、波及効果も高い。釣りを通じて、秋田上げえなうって誇りに思えるきっかけを増やしたいですね」

かつては芸能人が釣り目的で来県し、近年では、コロナ禍で再び釣りブームが訪れたように見えた。しかし、にわか客によるゴミ放置や駐車問題も頻発。マナー啓発も含め、釣りに親しんでもらう機会が必要と、令和2年からは秋田港北防波堤にて、全国初の「釣り公園」の運営にも取り組んでいる。この通称「北防」には、レンタル釣り

情報発信の針路を変えて

昨年末、静かに発行を終えた雑誌がある。釣り人による釣り人のための月刊誌「釣り東北」である。最終号は少し暗いトーンなのではと邪推したが、最後のページまで活気ある「釣りガイド」に徹底していた。どこまでも釣り人思っていることが伝わってくる。

「月刊という形ではなくなるけど、これからも続くよと、湿っぽくならず伝えたかった」と話すのは、釣り東北社社長の伊藤克朗さん。現在は、媒体の場を紙面からインターネットという大草原に移し「釣り東北ウェブ」として新生。ますます鮮度の良い情報を、毎日リアルタイムで発信している。

中心となるのは、ブログ、SNS、動画共有サイトへの投稿。同社の編集スタッフは3人ほどだが、創業40年間に培ったという、300人もの各地の釣り人ネットワークの協力で支えられ、新たな航路を進みはじめています。

釣りの魅力は、その奥深さ

「秋田って、釣り人からすると全国トップレベルで住みたい県なんです。垂ゼんのサクラマスや筆頭に、キス、アユ、ヤマメ、アオリイカなどを狙いにか

具が完備され、手ぶらで訪れることも可能。係員が配置され、初心者でも安全に釣りの手ほどきを受けられる。どこよりも旬の釣り情報をベースにした「ちょい釣り」体験。その感動を味わった人は、県外客も含め年間7千人を超えたという。秋田の魅力が伝えられる手札が、またひとつ増えたのではないかと。

「いつも北防に来る80代のおじいちゃん3人組がいて。釣りも人生も大先輩ですが、少年のように釣果を自慢したり、体調を心配しあったりして。ああいうのが幸せな光景だなと思うんです」

釣りは「秋田のライフツール」と語る伊藤さん。人生を分かちあう仲間にも出会えるし、何かと流出しがちな秋田において、貴重な磁力を秘めた資源と見ることが出来る。この先も、体験型事業を増やしていくそう。その伸び代に注目していきたい。

釣り東北社 代表取締役 伊藤 克朗 さん

【プロフィール】
1974年宮城県生まれ。(株)釣り東北社代表取締役。(一社)秋田港有効活用協会事務局長。秋田県内水面漁場管理組合管理委員。(公財)日釣振秋田県支部所属。好きな釣りはサクラマス、ワカサギ、アオリイカティップラン

問い合わせ

(株)釣り東北社
info@tsuri-tohoku.com
https://tsuri-tohoku.com
TEL.018-824-1590